l.c. 576 (1934). *Pleioblastus yakusimensis* Nakai ヤクシノ 植研 10: 199 (1934). *Chionographis sparsa* F. Maek. ヒナシライトソウ 植研 11: 378 (1935). *Apostasia nipponica* Masam. ヤクシマラン 植研 11: 46 (1935). *Tricyrtis kyusyuensis* var. *pseudoflava* Masam. ヤクシマチャボホトトギス 台博 25: 433 (1935). *Arisaema yakusimensis* Nakai ヤクシマテンナンショウ 植雑 44: 497 (1935). *Brachypodium miserum* var. *miserrimum* Honda ヤクシマヤマカモジグサ 植研 12: 152 (1936). *Goodyera leuconeura* F. Maek. シライトシュスラン 東亜図 1: 30 (1936). *Gastrochilus ciliaris* F. Maek. マツゲカヤラン 植研 12: 92 (1936). *Metanarthecium luteo-viride* var. *nutans* Masam. [ヤクシマノギラン] Bull. Soc. Bot. France 84: 18 (1937). *Platanthera tipuloides* var. *linearifolia* Ohwi ナガバトンボソウ 植物誌 ed. 1, 355 (1953). *Spiranthes sinensis* var. *micrantha* Sugim. ヤクシマネジバナ 植趣 18: 8 (1957). *Chrysoglosella japonica* Hatusima ヒメクリソラン 横須賀博研報 13: 28 (1967).

単子葉植物 ホンゴウソウ，カンザンチク，ツキイゲ，コウライシバ，ヤマジスゲ，ヤリテンツキ，ビロウ，クワズイモ，ユキモチソウ，シマツユクサ，タヌキアヤメ，ヒメナベワリ，キキョウラン，カラスキバサンキライ，マイヅルソウ，オモト，サツマサンキライ，ハマオモト，アオノクマタケラン，ゲットウ，シロシャクジョウ，ルリシャクジョウ，ナゴラン，オキナワチドリ，タネガシマムヨウラン，ヒロハノカラン，リュウキュウエビネ，トクサラン，ホウサイラン，カンラン，キバナセキコク，オサラン，ツチアケビ，リュウキュウシュスラン，シマシュスラン，キンギンソウ，チケイラン，ボウラン，タネガシマボウラン，フウラン，イナバラン，マヤラン，ショウキラン，キヌラン．　(国立科学博物館)

○タカネアオチドリについて (里見信生)* Nobuo Satomi*: *Coeloglossum viride* subsp. *coreanum* var. *akaishimontanum*

山崎敬氏が南アルプスで採集したアオチドリの一品は日本産のアオチドリと異り，むしろ，チョウセンヤマランに近い。したがって，山崎氏が植松氏と共著で発表した“赤石山脈植物目録”[1] にはチョウセンヤマランの名で発表した。杉本順一氏の長野県植物総目録[2] にもこれが登載されている。里見は山崎氏のすゝめで，この標本と東京大学に蔵せられているチョウセンヤマランとを比較研究した結果，図でみられるとおり，花部の構造についてはよく一致するので，近縁のものであると考えるが，生態的にはチョウセンヤマランが標高 1300～1600 m のカラマツ林下に生育するのに対し，

* 金沢大学理学部植物分類地理学研究室

1) 赤石山脈植物目録　山梨生物 6: 1 (1956)
2) 長野林友 1: 19 (1966)

タカネアオチドリは標高 2600 m の草地に生育する。地理的には前者が朝鮮北部のものであるのに対し，後者は分布的に離れた本州中部高山に産する。また，後者は前者よりも一層草丈が低いといった違いもみられるので，やはり区別出来るものであるという結論に達した。

チョウセンヤマランの一型が南アルプスに存在することは，大陸産のギンロウバイ *Potentilla fruticosa* Linn. var. *mandshurica* Maxim., ホザキツキヌキソウ *Triosteum pinnatifidum* Maxim., チョウセンゴヨウ *Pinus koraiensis* Sieb. et Zucc., チチブリンドウ *Gentianopsis contorta* (Royle) Ma 等が本州の南アルプスに隔離分布していることと考えあわせると興味深い問題を提供する。

次にチョウセンヤマランについて一言する。この植物については，最初，中井先生によって *Orchis coreana* の名で発表されたものであり，原記載にみられるとおり，Proxima *Orchis viridis*, sed exqua floribus duplo minoribus et foliorum habitu differt. で，アオチドリとの相違点として花の大きさと葉の形だけをとりあげているにすぎない。その学名を次の如くあつかうこととする。

Coeloglossum viride (Linn.) Hartm. in Handb. Skand. Fl. 329 (1820)
subsp. **coreanum** (Nakai) Satomi stat. nov.

Syn. *Orchis coreanum* Nakai in Bot. Mag. Tokyo **28**: 302 (1914)
C. coreanum (Nakai) Schlechter in Fedde, Repert **16**: 374 (1920)
Nom. Jap. Chôsen-yamaran (Nakai, 1914)

Hab. Korea: Mt. Chohakusan (長白山), Aug. 1913, leg. T. Mori—typus; Mt. Hôtaisan (胞胎山), Jul. 11, 1917, leg. M. Furumi

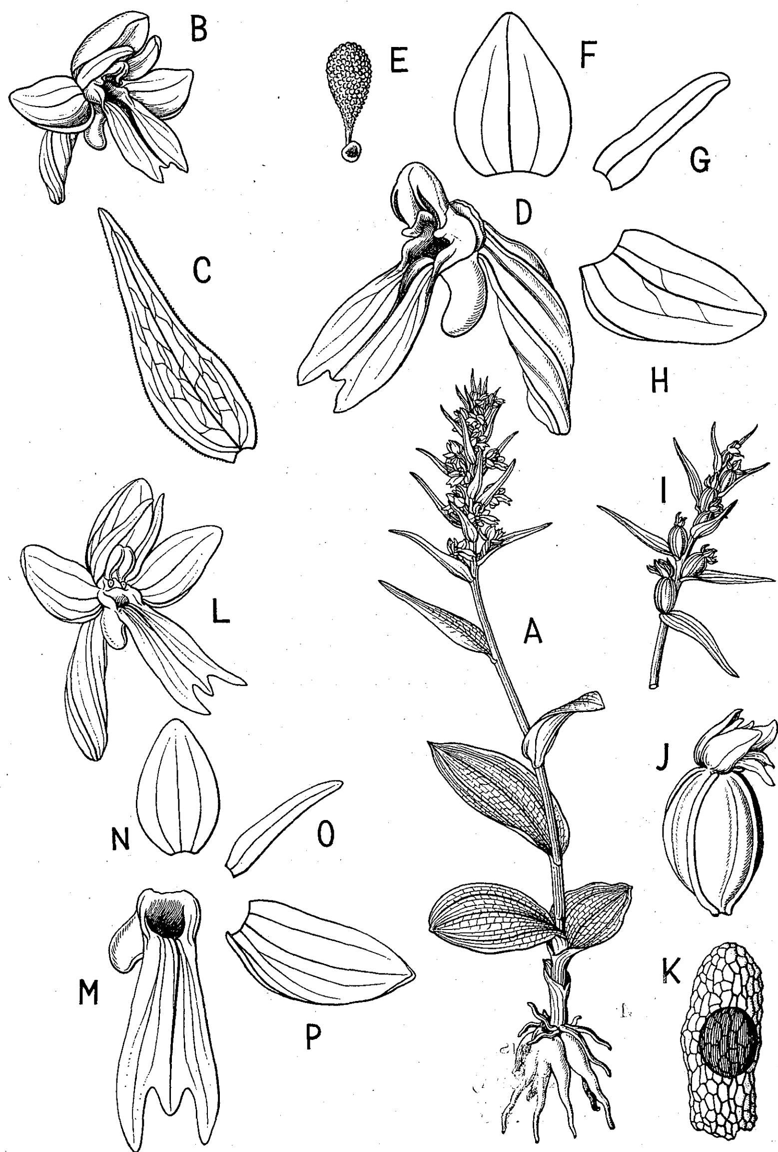
var. **akaishimontanum** Satomi var. nov.

Similis *C. viride* subsp. *coreanum*, sed planta minora 12 cm alta cum inflorescentia.

Nom. Jap. Takane-aochidori (Yamazaki, 1956)

Hab. Honshû: Mt. Sanpuku-tôge, prov. Shinano, about 2600 m., Jul. 30, 1953, leg. T. Yamazaki—Typus in Fac. Sci. Tokyo Univ.; Mt. Arakawa-dake, Sept. 20, 1953, leg. T. Yamazaki et H. Matsuda; Mt. Usagi-dake, Aug. 3, 1954, leg. T. Yamazaki, H. Matsuda and Y. Fujita.

Fig. 1. *Coeloglossum viride* subsp. *coreanum* var. *akaishimontanum*. A. 開花中の植物 Planta florifera; B. 花 Flos; C. 苞 Bractea; D. 萼片と花弁を取り去つた花 Flos, petala sepalaque separatus; E. 花粉塊 Pollinium; F. 中萼片 Sepalum intermedium; G. 花弁 Petalum; H. 側萼片 Sepalum laterale; I. 果実を有する植物 Planta fructifera; J. 蒴 Capsula; K. 種子 Semina.
C. viride subsp. *coreanum*. L. 花 Flos; M. 唇弁 Labellum; N. 中萼片 Sepalum intermedium; O. 花弁 Petalum; P. 側萼片 Sepalum laterale.


B
E
F
G
C
D
H
A
I
L
J
N
O
K
M
P